

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての基本的理念をいつでも確認出来る様に額に掲げてあります。住み慣れた地域で人々との関係を大切に、これまでの生活を継続しながらその人らしさを発揮していただきたいと考えています。	法人理念とは別にグループホームの理念が作られている。本部研修会や2ヶ月に1回のグループホーム合同勉強会でも職員に伝えている。職員はホーム理念を理解し毎日のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の古民家を改修した家ですので、その地域にとって違和感が無く、隣近所とごく普通におつきいをさせていただいています。地域の行事に参加したり、焼き肉会を開いて隣近所の方を招待したりして地域の一員として親しく交流しています。	近所の方々が沢山野菜が取れたと差し入れに来てくれたり、小学生との交流が続けられている。ホームで餅つきをするときに小学生30名くらいと餅をつき食べたこともある。近所の方々は自然な付き合いをしており、区費も支払い、区の会議や防災訓練等の行事にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	御近所の方々の相談にのる事は希ですが、あります。ボランティアや人材貢献として実習生の受け入れは積極的に行っています。実習生の受け入れは、1回2人を限度とし、利用者に迷惑がからない様配慮しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の役員の方々に事業所を知って頂く事は有意義な事だと感じています。会議での意見はサービス向上に役立っています。具体的な課題について話し合い、理解と支援を頂いています。避難訓練も一緒に行いました。	運営推進会議の意義を理解し2ヶ月に1回開催している。委員の方と活発な意見交換がされている。地域行事の情報を頂いたり、会議の後の防火訓練と一緒に参加して頂いたり、入居者とふれあう機会を設けている。	定期的開催され意見交換が出来るが、更に市町村職員、地域包括センターの職員等の参加が得られるよう開催日程の工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、毎回通知を差し上げていますが、地域役員の方の都合で土曜日開催する為、出席して頂けないのが現状です。成年後見人選出については、相談にのって頂きました。	成年後見人の相談をお願いし、適切な指示を頂いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間就寝前以外は施錠はしていません。全ての職員が危険箇所を把握し、目配り、気配りで安全を確保しつつ自由に生活して頂ける様な支援を行っています。	職員は身体拘束についての研修を受けており、身体拘束の弊害を認識している。鍵はかけていない。チャイムなどによる防止策も一切施していない。職員の目で確認し、入居者の意思を尊重する動きが自然に出来ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い、虐待について理解を深め遵守する様努めています。法人全体としても職員全体会議を通じ、アザレアン宣言の読み合わせを行い日頃のケアについて振り返る機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見が必要なケースでは管理者が一人で対応した為、他職員の理解は不十分に思えます。成年後見人が来所された時等、機会あるごとに随時、職員には説明しています。職員全体に勉強不足だと思っています。研修会や勉強会で勉強していきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用されるについて体験をしていただいたり、契約の内容について時間をとって説明しています。利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応方針、医療連携体制については詳しく説明し同意を得る様にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、来所時や電話などでご意見やご要望を言ってもらえる雰囲気作りに留意しています。又、家族会でもお話を伺う様にしています。介護相談員の訪問もあり、利用者が気軽に外部の方に相談出来る様に配慮しています。	家族会があり法人のグループホームとして年に3回位集まる機会を設けている。職員と家族の交流、家族同士の交流も出来、入居者・家族から喜ばれている。家族間の悩みなどもお互い話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はスタッフの意見や提案を聞く様に心掛けています。日々の会話の中からも感じ摂れる様話を良く聞く様に心掛けています。利用者との日常的な関わりの中から生まれる職員の気づきやアイデアは積極的に取り入れています。	定期的に行われるカンファレンスで自由に発言できる。ふだんの会話や引継ぎでも雑談もまじえ意見などを言いやすい職場風土となっている。ケアに関する悩みなどは管理者が聞いている。施設長による全員の個人面談も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個人面接を行い個々の努力や実績、悩み等把握する様努めています。健康診断の実施等職員の心身の健康を保つ為の対応もしています。職員の資格取得についても勉強会等開いて積極的にバックアップしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の全体会議が毎月あり。施設内研修会も実施されています。又2ヶ月に1回のグループホーム勉強会を開催して職員が学ぶ機会を多く作れる様努めています。資格取得の為の勉強会も開催しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のGHさんとの連絡会があり、相互に訪問して共にサービスの質を向上していく活動や勉強会、ネットワークづくりを行っています。親睦会も行われ、同業者との交流は盛んです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は、必ずご本人とご家族に会って生活状況や心身の状況、これからどのようにしたいのかご希望を聞くなどして安心が得られる様に配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくり聞く様にしています。相談にいらしたご家族等の立場に立ってしっかりと話を聴き、気持ちを受け止めながら信頼関係を築く様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時ご本人やご家族の思いや状況を確認し体験出来る状況であれば体験していただいています。利用する状況になれば必要なサービスにつなげる様にしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側の関係ではなく一緒に暮らし喜怒哀楽を共にする家族の様な関係でありたいと思っています。出来る事に着目し、得意な事を楽しみながらやっていただき、お年寄りからいたわりや励ましをいただく事もあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	用事がないと来ていただけないご家族もあります。家庭環境により仕方ないご家庭もありますが、折りにふれ電話、お便り等で現状をお知らせしたり、ご相談にのっていただいたりしています。家族会にもお誘いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院を利用したり、地域の馴染みの店に買い物に出掛けたり、知人をお茶に誘ったりして、出来るだけ関わりがもてる様に努力しています。	入居時に友人が訪ねてきたこともある。また友人よりお茶などの誘いを頂くと職員と一緒に自宅に訪問し楽しんでいる。地区の「いきいきサロン」に参加させて頂いている。神社の祭り、どんど焼きなど地域行事に積極的に参加している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聴いたり、相談に乗ったり、皆で楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごす時間を作るなど、関係が上手くいく様にしています。心身の状態や気分が日々変動する為トラブルが生じる時もありますが原因を探りその様な状況を作らない様支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されると、疎遠になってしまいがちです。お亡くなりになられた方のご葬儀や新盆にはお参りさせていただいています。良い関係が継続出来る様努力していきたいと考えています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でゆっくり話を聴き、把握に努めています。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認する様にしています。ご家族からも情報を得る様にしています。	入居時に本人・家族より生活歴の聞き取り調査を行っている。日常の会話からも意向などを感じ取り記録している。入居者も職員の観察をしており、「こちらの件はこの人、あちらの件はあの人」と職員を決めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時にご家族から情報を頂いています。その方にとってのこれからの暮らしは今までの暮らしの延長ととらえていますので出来るだけ情報の収集に努めています。入居後も機会ある毎にお聞きしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	得意な事、楽しんで出来る事に注目し、関わる様にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させる様にしています。必要に応じてご家族を交えてカンファレンスを行っています。ご本人に意向に添った介護計画にしていきたいと思っています。	毎月評価を行ない、三ヶ月に一回の見直しを行っている。状況が変化した時は随時変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録はお年寄りの状態の変化や日々のケアでの気づき、出来事、必要に応じて食事や水分量の記録を行なう事で、スタッフ間の情報の共有化を図っています。個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護ステーションとの契約により重度化した場合や、終末期の対応が可能でありご本人やご家族の意向にそえる様に努力しています。又、通院等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館活動に参加したり、本原小学校の児童との交流を行ったりしています。消防の方には家の配置図や利用者の状態などの資料をお渡しし、有事の際の協力をお願いしてあります。地域の方々にはご協力お願いしてあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も主治医の変更を勧める事はありません。ご本人、ご家族のご希望の応じて対応しています。職員のみでは不可能な受診はご家族にも協力頂いています。往診に来て頂くケースもあり医療機関との関係を密にしています。	入居前のかかりつけ医を継続するようにしている。協力医への変更は入居者・家族よりの申し出により行っている。協力医の往診がある。以前のかかりつけ医の受診の際は職員が付き添うこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応を頂いています。日常的に連携がとれています。協力医療機関との連携もとれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはなるべく多く見舞う様にしています。病院側、ご家族、訪問看護師との情報交換や意見交換を行いながら、早期退院に結び付けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う介護についての同意書で指針の説明をし、同意をいただいています。ご家族、医師、看護師を交え話し合いを行いご本人やご家族のご希望やお気持ちに沿った方針で支援を行っています。随時状況の変化をお伝えし、相談、意志確認しながら取り組んでいます。	ホームでの看取りを行った経験がある。指針も作成されており法人運営のグループホーム合同で勉強会を行っている。現実として直面する際にも、家族・医師・訪問看護師・管理者の話し合いの後、職員に伝達し方針を共有している。終末期の入居者の入浴については訪問入浴や訪問看護など、外部の協力を得て行うことが出来た。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が、消防署の協力を得て、年に1度救急救命法の講習を受講し対応出来る様にしています。緊急連絡網や対応マニュアルを整備し周知徹底を図っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回運営推進会議の後、利用者さんと共に避難訓練を行っています。その際避難経路の確認もしております。地域の協力体制については自治会に家の見取り図と利用者さんの歩行状態についてお知らせしています。消火器の点検は業者により定期的に行っています。	年2回予定されている。1回は運営推進会議の後、委員の方と入居者、職員で行われた。6月の予定時は高温と入居者の体調不良のため中止となった。毎日書かれている日誌に「火の元点検」の項目があり、良いアイデアだと思った。救急救命法は毎年消防署において全員が講習を受けている。	年2回の予定があるが都合により1回のみ実施された。災害は時間や気候などを問わずに起きることから、状況を見て方法等を変えて実施されることを望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時として職員がお年寄りに向けて発している言葉の内容や語調等が馴れ合いの中で誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねる対応になってしまっていることもあります。そんな時は、注意し合ったり、ミーティング等で確認し合ったりしています。	日々、入居者の誇りを傷つけたりプライバシーを損ねる対応をしていないか職員は心に留めながらケアに取り組んでいる。言葉掛けや対応が不適切な場合には職員同士話し合い、具体的に確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お年寄りの意志や希望を大切にしています。意志を確認し、希望されない事は無理強いする事のない様にしています。言葉では十分に意志表示出来ない場合でも、表情や反応を注意深くキャッチしながら自己決定出来るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お年寄りが主体と考えています。お年寄りの希望を最優先する様にしています。一人一人の体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重し、個別的な関わりを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿い、馴染みの床屋や美容院に行けるよう支援しています。個々の生活習慣や好みに合わせる様にしています。身だしなみは大切にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お年寄りと相談したり、一緒に買い物に出掛けて献立を決める様にしています。得意調理を作って頂いたり、盛り付け、片付け等を共に行ったりしています。職員とお年寄りが同じテーブルを囲んで楽しく食事出来る様雰囲気作りも大切にしています。	食べたいものを入居者の方に聞き献立を作成している。材料の買出しに交代で入居者も一緒に出掛けている。作業を分担し、関わりを持ちながら食事の準備をしている。職員も一緒にテーブルに着き、同じ物を食べ、「今日のは美味しいね」などとお互い感想を言い合い食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自由に好きな物を楽しめる様配慮しています。食事が充分摂れない方には、食事チェックを行行情報や気づき、アイデアを出し合い、嗜好品や食べやすい物の工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとりの習慣や意向を踏まえ、個別に働きかけを行っています。自分で出来る方は見守りをし、出来ない方に関してはご本人の力に応じた口腔ケアを行っています。夜間は義歯は義歯洗浄薬につけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を参考にして時間を見計ったり、様子から察知し、トイレ誘導、オムツ交換等の支援を行っています。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、パット類も本人に合わせ検討しています。極力ご本人が傷つかない様配慮しています。	職員の声掛けが必要な方や自立している方など一人ひとりに合わせ職員は見守りを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方に限らず、十分な水分補給と野菜中心の食事の提供をしています。買い物に出掛けたり、洗濯物を干したり取り込んだり、散歩に出掛けたりと日常生活の中で自然に身体を動かせる様に工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望される日や時間に沿って入浴していただいています。日中、夕食前、夕食後、就寝前等それぞれです。入浴を好まない方に対しては声かけのタイミングや入りたくなるような誘い方の工夫をしています。入浴剤も好みに応じて使用しています。	「寝る前に」との希望や「毎日」との要望など、一人ひとり好きな時間帯に入浴が出来るように支援している。職員の工夫や入居者自身の慎重さにより、深めのお風呂であっても楽しみながら安心して入浴が出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中に活動をしていただいています。眠れない方には、就寝時間にこだわらず、眠くなるまで居間で温かい飲み物など一緒に飲みながら過ごしています。眠剤を飲まれている方には睡眠状況を把握しDrと相談しながら調整しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、効能、副作用の説明をケース毎に保管し、内容を把握出来る様にしています。薬袋に飲み忘れの無いよう日付を入れています。状態の変化が見られた時は詳細な記録をとるようにし、訪看や協力医療機関との連携を図っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事、楽しんで出来る事など負担にならないよう気を配りながらやっていただいています。食事の準備、食後の食器洗い等役割になっている仕事もあります。やっていただいた時には感謝の言葉を伝えています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、ドライブ等出来るだけ外出する機会を多く作るようにしています。歩行困難な方でも、戸外に出る事を積極的に支援しています。	毎日の買出しに出かけている。ホーム周辺は急な坂道のため車で出かけた先で散歩をしている。外気にふれるため庭や縁側にいると通りを歩く人と顔が合い、気軽に挨拶などを交わすなど、ごく自然な流れで暮らしている。すぐ側にある小学校の生徒とも登下校などの際、気軽に挨拶をしている。	

中原グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持てる方には持っていていただきます。必要な時はご自分で払っていただいています。お年寄りがお金を持つことを阻害する事なく、店で希望される物を買ってご自分で支払いをしていただく事を支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コードレス電話で自室でゆっくり話ができます。贈り物が届いた時等、職員から声をかけ電話しやすい雰囲気作りをしています。ご家族や知人からの電話や手紙には、感謝しています。ご希望に応じて自由に電話が出来る様に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古民家を改修している為、お年寄りにとって馴染みやすいつくりになっていると思います。季節の花を飾ったり、寒い時期には炬燵を作る等季節感が感じられる様にし、自宅での生活環境に近い環境で過ごしていただける様工夫しています。	民家改修の家なので、昔ながらの襖や板の戸などお年寄りには懐かしい居室となっている。居間には炬燵が作られ、暖かな日には縁側にイスを置いてウトウト居眠りする姿も見られる。わが家に帰った感覚がするホームである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い家なので共有空間は少ないです。自由に生活していただいていますので、一人で過ごしたい時はご自分の部屋で過ごされています。天気の良い日は庭で花を眺めながら、気の合う同士で日向ぼっこをたのんでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具や家具、大切にしていた物等入居時にお願ひしています。ご自分なりの整理の仕方、こだわりのある方もいらしゃいますので、相談しながら、ご本人にとって居心地の良いお部屋になるように工夫しています。	既存の家のため居室を通り居室へという動線があるが、職員の工夫で問題なく過ごされている。各居室にはその人らしい飾り付けがされたり、調度品が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人にとって「なにがわかりにくいのか」「どうしたらご自分の力でやっていただけるか」を職員で話し合い、必要に応じてご家族にも協力していただく事もあります。心身機能の状態の変化に考慮し生活環境の改善にとりこんでいます。		